



発行 社会福祉法人 聖友ホーム
 聖友乳児院（乳児院）
 聖友学園（児童養護施設）

聖友ホーム応援団 聖友ホーム ささえ隊 会員募集中！

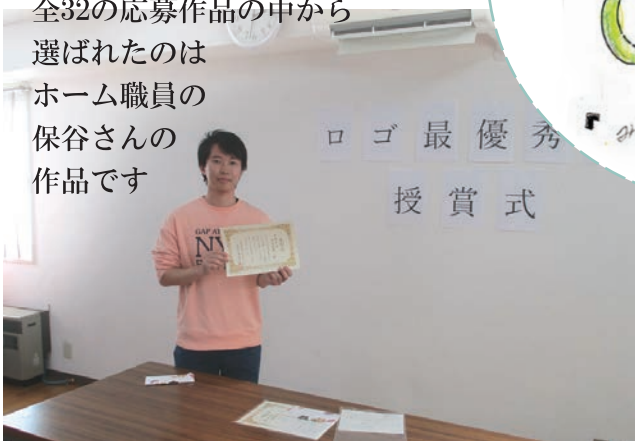
「ささえ隊」について詳しくはHPまたはチラシをご覧ください



合築事業に向けての展望と報告 その③

2つの施設の合築と 職員交流を推進する 聖友ホームのロゴを作ります

全32の応募作品の中から
選ばれたのは
ホーム職員の
保谷さんの
作品です

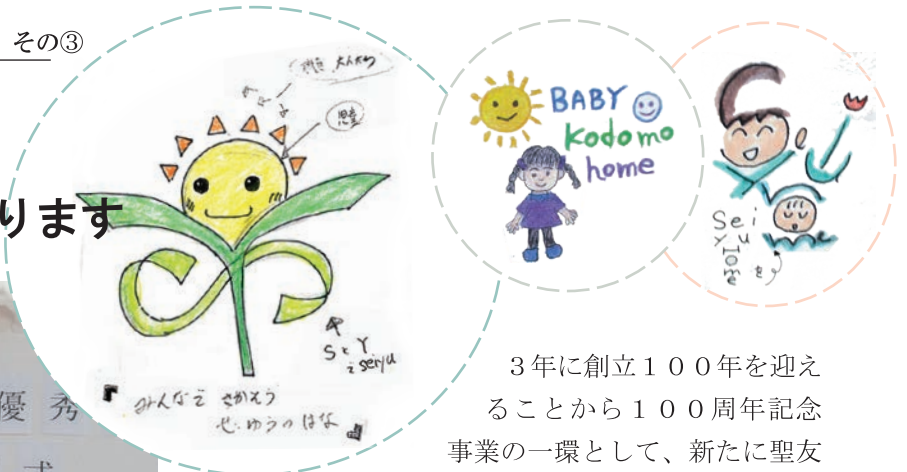


現在取り組んでいる施設整備事業ですが、職員の意見をできるだけ反映させたいとの思いから、職員の意見を聴取するワークショップを2020年6月から毎月のように開催してきました。そのワークショップも、先月、第18回目をもって終了しました。これでほぼ建物の内容が決まりました。建物というハード面が固まったことから、これからは新しい建物での子どもたちの生活や職員の働き方という、ソフト面の検討に入っていきます。

新しい建物は乳児院と児童養護施設が合築されます。一つの建物に2施設が同居するため、施設を超えた職員の交流が活発となり、聖友ホームの目標である「切れ目のない支援」がより充実することが期待されます。

子どもたちからもたくさんの応募作品が

そこで、建物の合築だけではなく2施設の職員の一体感をより高めたいとの思いから、また、202



3年に創立100年を迎えることから100周年記念事業の一環として、新たに聖友ホームのロゴを作成することにしました。

子どもたち（卒園生を含みます）と職員からロゴを募集したところ、予想を大幅に上回る全32作品が応募され、そこから選考委員会の審議と投票を経て3作品に絞り、職員と役員の決戦投票で1つの大賞作品を選びました。なお、子どもの作品の中には、絵が細かくてロゴにはしにくいものの大変な力作があり、選考委員の高い評価を受けたものもありました。応募してくれた子どもたちと職員に感謝いたします。

大賞を受賞したのは、聖友学園のグループホームに勤務している9年目の職員の保谷拓貴さんです。保谷さんによると、「絵が好きなので応募することは募集があつてすぐに決めました。宿直の勤務終了後に、ホームにあった不用な紙の裏に、1時間ほどで描きました。まず、自分がファミレスで食べたアイスクリームの形から発想し、それを花のイメージにふくらませ、聖友のSYを入れ、さらに真ん中に子どもを、その周りにそれを支える大人を配置しました。大賞をとれてうれしいです」とのことです。今後この大賞作品をもとにして、専門家の協力もいただいてロゴの完成へと進みます。

今後は、新たに制定されるロゴのもとで、全職員が一体となって、子どもたちを支援していきます。





Conicoって何だろう？

施設で働く職員の専門性を生かし、阿佐谷の子育て支援基地として、皆様のお力になりたいという想いから、聖友ホームではこれからご出産される妊婦さんやそのご家族、子育て中の親御さんとお子さんのための居場所づくり、のんびりお話や情報交換ができる空間の提供を目指し、毎月第2・4水曜日10:00～12:00に「子育てきずなサロンconico」を運営しています。「きずなサロン」は杉並区社会福祉協議会公認の活動であり、この活動資金の一部は、区内の皆様から頂いた助成金・募金で賄われています。



Conicoで 子育ての 悩み・不安 話してみませんか



聖友学園に向かって右隣の「ピーちっこの家」を会場として、2020年8月、最初の緊急事態宣言が明けた後のコロナ禍にスタートしたconico。

活動は今日まで休むことなく続いており、天候や季節に関わらず満員が続く状況に、利用ニーズの高さを感じます。マスクでご出産されたお母さんたちが、未だ気軽に歩出くこともままならない大変なご時世ですが、心穏やかに子育てに励むには、悩みや不安、日常の些細な出来事を身近なだれかと共有し、適度にリフレッシュすることが不可欠です。また、同じ年頃のお子さん同士が触れ合い、刺激を与え、受け取る機会は、私たちが考える以上に子どもの成長を促す貴重な経験です。

**誰もが集える
フリーなスペースとして**

conicoは予約不要、完全無料、時間内出入り

自由、定員は現在親子8組です。感染症対策を図りつつ、お菓子とお飲み物を用意して（感染状況により提供を見合わせる場合もあります）お待ちしております。電子レンジとポットの用意があり、サロン内でお子さまに離乳食を食べさせることも可能です。身長・体重計を常設しているため身体計測ができること、今年度からは誕生月に手形・足形を取り、親子フォトを添えたバースデーカードをプレゼントする取り組みも行っており、大変ご好評いただいております。

子育てに悩み、不安に思った時、ほっと一息つきたい時、そんな気持ちを共有し、一緒によりよい手だてを考えながら、お子さまの成長を見守りたいと考えています。どうぞお気軽にご利用ください。

また「育児相談ルームconico」では、保育士、看護師、心理士、栄養士など様々な資格を持った職員が、今さら聞けない子育てのこと、今後を考えると少し不安なこと、相談機関に向くには勇気があるけれど、誰かに聞いてもらいたい話などに個別に対応することができます。相談は無料ですので、まずは conico@seiyuhome.org にメールいただきたいと思います。

聖友学園 育児指導担当 中村 朝美



**Conicoとは、聖友ホームが20年夏より
母親・保護者たちを対象に
子育ての支援として始めている
専門家を交えての
フリーな語らいの場**



7年ぶりに乳児院を訪ねてきた Y君(9歳)との交流を通して思う 卒院後のアフターケア の大切さ



最近、乳児院を経て里親宅や児童養護施設で生活をする方々から、こちらを訪ねたいとのご要望を受けることが多くなりました。背景には「生い立ちの整理」や「二分の一人式」など、様々な振り返りの機会をきっかけとして、乳児院で過ごした日々も子どもたちの大切な一部であると、考えられるようになったからだと思います。

つい先日、数年前にこちらから都内の児童養護施設へ生活の場を移し、今もその施設で過ごされている9歳のY君が、現担当職員の方とともに乳児院を訪ねてきてくれました。当時の担当職員が、思い出を語りながら施設内を案内し、Y君は、緊張しながらも、お部屋を一つ一つ、興味深げに見て回っていました。その日は、近年久しぶりの積雪となった日で、とても寒かったのですが、Y君は、躊躇することなく中庭や屋上にも出て、そこから見える景色を眺めていました。事情により、乳児院での写真を持っていないとのことだったので、担当職員と協力してアルバムを作成し、それを見ながら当時を振り返り、また、当時よくおやつの時に飲んでいた「ミルミル」を飲んでもらったりしながら、児童養護施設での出来事や、学校での様子をお聞きしました。

だんだんに緊張が解け、当時の面影の残るかわい笑顔で、Y君がおしゃべりする姿や、児童



養護施設の現担当職員の方とのほほえましいやり取りに、Y君の成長が感じられ、私たち乳児院職員も楽しい時間を過ごすことができました。Y君も同じように楽しんでくれていたら良いなと思います。

覚えていたホームの 「味」そして「匂い」

印象的だったのは、Y君がミルミルを飲んだ時、「なんかこの味、覚えている」と言ったり、寝室を案内した時に「ここの匂いは知っている」と言ったりしていたことで、乳児院で過ごした記憶を大切にしてくれていることを実感し、乳児院職員としての責務の重さを、あらためて認識しました。

聖友乳児院は、5年程前より、アフターケアに対しては特に力を入れ、委員会を立ち上げ試行錯誤しながら対応してきましたが、まだまだ不十分であると感じています。今後も、乳児院にいる間のサポートだけでなく、その後についても、乳児院ならではのサポートをしていけたらと思います。

聖友乳児院 家庭支援専門相談員 平野 薫





転職組のケアワーカーとして

私はいわゆる転職組で、公務員として霞が関や地方出先機関で、20年以上働いていました。

8年ほど前、家庭の様々なことがひと段落し、自分自身を見つめ返した折に、若かりし頃に保育者として働く夢をもっていたことが、頭をよぎるようになっていました。それまでも、休日には杉並区の児童館などでボランティア活動を行い、遊びを介して子どもたちと接する機会は多々あり、やりがいもあって楽しく続けていましたが、ある日、児童養護施設のとある子どもから『施設の職員さんだったら良いのに』と言われたことがきっかけで、子どもたちが自立することを共に、生活しながら支えていきたいと考えるようになりました。

そして、慣れ親しんだ地域の児童養護施設の中から聖友ホームの門を叩き、児童養護施設聖友学園のケアワーカーとして、現在に至っています。

ボランティアで子どもや保護者と接してきたことは、ほんの少し役に立ちましたが、20年以上前に学んだ知識などは、再度当時の専門書を引っ張り出しては読み返し、現在との違いを勉強しながら、戸惑いや失敗を繰り返しては上司や先輩方に様々な教えを請い、骨を折りながらも子どもたちの成長を共に支援しています。

家庭支援専門相談員として、家庭復帰などに向けた親子関係調整のため、子どもたちと保護者や他の多くの職員、関係機関とも接する機会が増えました。今年度からは、聖友乳児院との合築に向けた、施設整備関係の業務にも携わることになり、国や東京都、地方自治体に各業者の方々と接することは、以前の仕事の経験も活かせる機会を頂いています。

今、自分は何のために何ができるのか、過去の経験を礎に、新しき良きことも取り入れ、聖友ホームに携わる多くの方々と共に考えて、子どもたちのために日々を送り、一期一会の気持ちで、今まで出会ってきた方やこれから出会う方と接していきたいと思いながら、今日も電車に乗って聖友ホームへ向かっています。

聖友学園 林 健一

2021年12月 たくさんのご寄付をいただきました



聖友ホームを日頃からお支援助いていただいている多くの方々から、日常的に寄付金や寄付物品をいただいております。特に12月はクリスマスや年越しの関係から、いただく寄付が多くなる傾向があります。いつものご支援ありがとうございます。

2021年12月、聖友ホームのHPの寄付物品のお願いページに、「Amazon欲しいものリスト」へのリンクを試しに貼ったところ、数多くのギフトをいただきました。「Amazon欲しいものリスト」とは、聖友ホームのAmazonアカウントに自分たちの欲しいものをリストアップして公開しておく、それを見た人がAmazonで購入して聖友ホームにプレゼントしていただけるという仕組みです（今もリストを公開していますので、HPをご覧くださいければ幸いです）。



初めての試みでしたが、驚くほどたくさんのごギフトが届きました。これまで聖友ホームとご縁のなかった初めての方々からのギフトが目立ちました。新たなご縁をいただきありがとうございます。

また、日頃からお支援助いていただいている方から、「卒園生の生活支援のため」という目的で50万円もの寄付金をいただきました。お気持ちをふまえ、卒園生に現金で配布させていただくこと

としました。卒園生にまで思いを寄せていただきありがとうございます。

多くの善意に接し心から感謝しております。厚く御礼申し上げます。これからもご支援いただけますようよろしくお願いいたします。